

2 年 国語

かたかなのことば

番組名 「ことばドリル」

放送回 第3回カタカナでかくことば

実践者 横浜市立柏尾小学校 教諭 高野 健一

子どもに身近な場面を通して「初歩の読み書き」を、番組とセットで利用することで楽しく身につけられる番組。

番組の使い方

活用のねらい

片仮名は平仮名に比べて使用頻度が少なく意識的に書く場を用意しなければ、十分に定着を図れない。また片仮名を使用する場合のルールについても理解させ正しい表記の仕方を定着させる必要がある。番組を見ることで、正しい表記をしなかった場合に起こる事態から学習の大切さに気付いていくことができる。

具体的な手立て

番組で示された「ドリル」を、黒板上に模造紙で拡大提示して、児童がマグネットの解答を操作・貼付できるようにした。大人がフリップ上に解答を記入する「ことばアンケート」も同様に組み組めるようにしたことで、番組世界を共有して楽しみながら学べるようにした。

授業の概要（3/3 時間）

単元の目標 片仮名で書く言葉に興味をもち、片仮名を使って、主述が整った文を書くことができる。

前時までの確認

- 教科書の絵から既習のかたかなを確認する。

学習課題の確認

- 「かたかなでかくことばを たしかめよう」

番組視聴（10分）

- かたかなで書くことで伝わる例からかたかな表記の必要感をもつ

ことばアンケート・ことばドリルに取り組む

- 「トマト」「キャベツ」「オクラ」番組から正解を確認する。
- 「コント」で使用場面を見る。

「うたっておぼえる漢字ドリル」

- 漢字のつくりを楽しく学ぶ。

授業の振り返り（5分）

- 感想を伝えたり、書き表したりする。

生き生きと学ぶ子どもの姿

番組は食い入るように視聴していた。

番組中の「ことばドリル」を黒板上に拡大掲示して解答の操作を募ると、多くの手が上がった。

「ことばアンケート」での野菜名を書く活動についても関心を寄せて意欲的に取り組んでいた。

間違った解答を書いた大人のフリップには「えー」と大きく驚きの声をみんなで上げていた。

「ドリル 600」のニュースでも間違ったカンペに「ワーちがうちがう」と強い反応を示していた。

授業を終えて

番組活用を3時間目に設定したことで、既習を生かして多くの児童に解答意欲が生まれていた。「とてもおもしろくて、わかりやすくおしえてくれる」という言葉のように、番組活用を授業に取り入れることで、片仮名で表記すべき場合の理解がおろそかであった児童に対しての学習効果がより大きいと感じられた。

